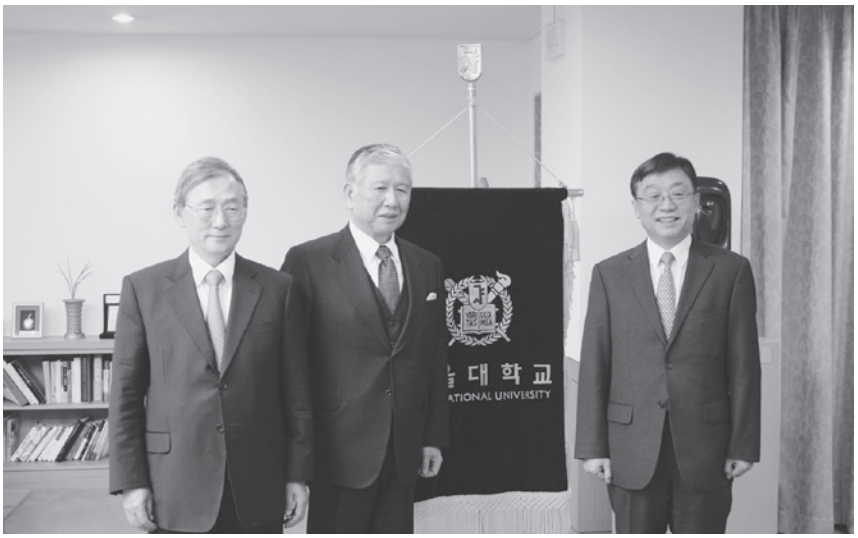
第14回ソウル大学・北海道大学 ジョイントシンポジウムを開催



LEE前総長（左：本学名誉博士），佐伯総長，ソウル大学OH総長（右）

第14回ソウル大学・北海道大学ジョイントシンポジウムが，11月17日（木）から19日（土）の３日間にわたり，韓国ソウル大学にて開催されました。本学とソウル大学は，1997年に大学間交流協定を締結し，これを記念して翌1998年に第１回合同シンポジウムを札幌で開催して以来，毎年交互に当番校となって合同シンポジウムを開催しており，今回で14回目となります。

11月17日（木）に開催された全体会では，テーマを「Social Responsibilities of Universities」とし，ソウル大学のYeon-Cheon OH総長の挨拶，本学佐伯　浩総長の特別講演，また，本学上田一郎理事・副学長，ソウル大学Kyung-Ho SUH一般教養学部長による基調講演が行われました。また，長年，両大学の交流に貢献された本学情報科学研究科の本間利久名誉教授への感謝状の贈呈も行われ，全体会の最後には，韓国の伝統的な音楽演奏，歌の披露が行われました。

全体会に加え，シンポジウム期間中（一部のものを除く）には，医学・理学・工学・農学・薬学・教育学などさまざまな分野において，過去最多となる16にも及ぶ分科会が開催され，それぞれの分野において，教員，研究者，学生等による研究発表や活発な意見交換が行われました。なかには，ソウル大学，本学以外の大学が参加する分科会もあり，より広い視点からの議論を行うことができました。

今回のシンポジウムには，本学からは100名を超える教員・研究者・学生等が参加しました。第14回目を迎えた本シンポジウムは，質・量ともに充実し，教員だけでなく，若手研究者や学生にとっても研究成果を発表するための貴重な機会となり，本学とソウル大学との交流促進の大きな原動力となりました。

今後も本シンポジウム開催を通じて，韓国屈指の有力大学であるソウル大学との連携・協力関係を強化していきます。

（国際本部国際連携課）

佐伯総長の特別講演

上田理事・副学長の基調講演

全体会の様子

分科会１

Recent Developments in Mathematical Analysis and Related Fields

数理解析と関連分野における最近の発展／理学研究院　教授　相川弘明

本分科会は11月16日（水）・17日（木）の２日間にわたり，ソウル大学の数学教室にて開催されました。本学の数学教室から教員５名，研究員１名，大学院生３名の計９名が，ソウル大学数学教室からは，教員７名，研究員８名，大学院生25名の計40名が参加しました。

16日は本学から２件，ソウル大学から２件の全体講演があり，17日は２つのパラレルセッションに分かれて，本学から７件，ソウル大学から７件の講演が行われました。数学に関する分科会は今までに６回開かれてきましたが，2008年で中断していました。今回ソウル大学のPanki Kim 先生，Sun-Sig Byun先生，本学理学研究院の利根川吉廣先生のご尽力により，数学分野の分科会を再開できたことは大きな喜びです。

本分科会の基調テーマは数理解析学であり，基礎的な解析学から，フーリエ解析，偏微分方程式，確率論まで幅広い分野にわたって研究発表が行われました。私自身は16日に講演を行い，17日にはパラレルセッション２の座長を務めました。このパラレルセッションでは，ソウル大学の発表者がすべて女性であり，ソウル大学における女性数学者の活躍ぶりに目を見張りました。また，内容的に自分の研究テーマに非常に近い発表があり，刺激を受けました。

参加者全員が，それぞれの分野において研究視点を共有することができたと思います。今後も，ソウル大学と本学の数学分科会の継続発展を目指していきたいと考えています。

数学分科会の本学側参加者
（分科会終了後，奎章閣にて）

分科会２

Plant Development and Environmental Responses

植物の発生と環境応答／理学研究院　教授　山本興太朗

植物科学に関する本分科会は一昨年度から行っており，本年度は「Plant Development and Environmental Responses」と題して，11月18日（金）に開催しました。本分科会の目的の１つは，大学院生の教育に貢献することであり，本学大学院生５名とソウル大学院生３名が，ポスター発表と短い口頭発表を行い，その他４名のソウル大学院生が，ポスター発表を行いました。また，教員については，本学より６名，ソウル大学より４名が発表しました。

シンポジウムの内容は，植物の発生から細胞構造，ゲノムの進化まで，植物科学の広い範囲にわたる非常に有益なものでしたが，ソウル大学側に個々の遺伝子の機能に重点を置いた発表が多く，本学側は環境応答に重点を置いた，より高次の生物現象や細胞構造を扱う発表に特色があったように感じられました。ソウル大学で博士研究員として活躍している日本人研究者の参加があったことも今回の特色でした。本学の大学院生が彼らの活動を知ったことは，とかく欧米に偏りがちな私たちの意識に新鮮な影響を与えたと思います。

最後に，本分科会の開催にご尽力いただいたCho教授に深く感謝したいと思います。

佐藤長緒助教の口頭発表

ポスター発表会場に集まった参加者

分科会３

Sustainability Issues in Environmental Sciences

環境科学におけるサステナビリティ／地球環境科学研究院長　嶋津克明

11月18日（金）に行われた本分科会は，先ずInsung Lee教授による歓迎の挨拶で始まりました。その後，本学環境科学院７名とソウル大学地球環境科学科４名の大学院生が，環境に関する様々な研究について口頭発表しました。その内容は，大気圏・陸圏・海洋の化学物質の動態や環境問題解決のための技術開発，更には社会科学的な内容を取り入れた広範囲にわたるものでした。発表に対して，双方の教員が教育的な見地から質問やコメントをし，学生にとって貴重な体験となりました。その後の昼食時には，双方の学生はすっかり打ち解け，熱心に意見交換をしていました。

今回，本学教員は２名の参加でしたが，ソウル大学側からは，これまで分科会にかかわった先生方，博士研究員・大学院生が多数出席していました。特に本学環境科学院のOBで，現在ソウル大学博士研究員として活躍中のChungwan Lim博士と久しぶりに会えたことは嬉しい出来事でした。最後にGCOEの活動と参加の呼びかけ，来年度分科会の見通しなどについて紹介し，分科会を終了しました。

参加者での集合写真

分科会の様子

分科会４

2011 SNU-HU/GCOE Collaborative Workshop on Advanced 3D Modeling and Sensing for Complex Objects and Environments

複雑対象・複雑環境の先端的モデリング・計測技術に関するソウル大ー北大GCOE共同ワークショップ／情報科学研究科　教授　金井　理

本分科会は，情報科学研究科GCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」の支援により，合同ワークショップとして2008年から毎年開催しているものです。11月16日（水）・17日（木）の２日間にわたり，両校から教員15名，博士課程学生17名が参加し，教員の研究成果発表と，博士課程学生によるポスターセッションを実施しました。本分科会では，データマイニング，CAD／CAM／CAE，画像処理など，３次元データを含む複雑で大量のデータ内から有用な情報を発見する情報科学的なトピックについて，最新研究成果の情報交換を行いました。

２日目の午後には，ソウル大学の２研究室（Human Centered CAD Lab, Intelligent Data Systems Lab.）を見学し，いずれも政府や大企業をスポンサーとする大規模プロジェクトを教員が積極的に推進していることを実感しました。学生のポスターセッションでは，参加者によるベストポスター賞の審査を行い，本学情報科学研究科の博士課程学生であるThaer Moustafa Diebさんが受賞者の一人となりました。

本分科会は４年目を迎え，交流活動も少しずつ具体化しています。本年度末には本学の博士課程学生がソウル大学へ３カ月間滞在し，環境３次元レーザ計測に関する共同研究を行うことが決定しており，来年度の教員の相互滞在についても，具体的な実施計画が検討されています。

分科会参加者全員で記念撮影

両大学博士課程学生のポスターセッション

分科会５

The 7th Seoul National University and Hokkaido University Joint Symposium on Mechanical and Aerospace Engineering

機械工学と航空工学に関するシンポジウム／工学研究院　教授　小林幸徳

シンポジウム会場の様子

Nooli Jeon教授によるソウル大学の紹介

1日目参加者の集合写真

11月17日（木）・18日（金）に開催された本分科会は，2005年にソウル大学航空宇宙工学科のW. I. Lee教授と本学工学研究院人間機械システムデザイン専攻の成田吉弘教授の企画によりスタートし，７年目となりました。今回は流体工学, 燃焼工学, ロボット工学, 振動工学といった継続的テーマに加えて，感性工学と中性子応用に関する発表もありました。本学から教員８名, 学生６名, ソウル大学からは教員５名, 学生６名が講演を行いました。

まず，本シンポジウムの準備にご尽力いただいた，Nooli Jeon教授の司会のもと，ソウル大学側座長のJongwon Kim教授から開会の挨拶がありました。引き続き，Nooli Jeon教授よりソウル大学航空宇宙工学科の紹介，本学側座長の小林幸徳教授から北海道大学及び工学研究院機械系部門の紹介を行いました。その後，１日目は両大学教員による研究発表があり，２日目は成田吉弘教授による東日本大震災に関する講演を皮切りに，両校の大学院生による研究発表がありました。

これまでのシンポジウムでは，教員と学生は別室に分かれて並行して発表を行ってきましたが，今回は日程の都合もあり，１室で全ての発表を聞くこととなりました。学生発表者も，全員が立派に発表と質疑応答をこなし，学生達の英語力の高さを知る良い機会となりました。そして，今後のより深い研究交流を期待する閉会の言葉とともに，盛会のうちにシンポジウムを終えました。

分科会６

International Symposium on Food Safety

食の安全／農学研究院　教授　小林泰男

本分科会は食の安全をテーマに，11月18日（金）に開催されました。ソウル大学からは農業生命科学部のHa Jong Kyu教授を代表とする４名の教員が，本学側は農学研究院の教員４名（うち１名は特任教員）が，講演と司会進行を担当しました。その他，ソウル大学から41名の大学院生と３名の教員が聴衆として参加し，休憩をはさみ夕方まで活発な質疑応答が繰り返されました。

食の安全は, 近年各国で重要視され, 病原菌の作用などを分子レベルで扱う基礎科学から，食物の流通などを政策も含めて議論する社会科学にいたるまで，きわめて多岐にわたる学問領域です。今回は病原菌の生存，食物アレルギーの制御, 畜産物の生産性や地域性, 食物の農薬・放射能汚染を扱う講演を集め，なるべく包括的な話題提供となるよう配慮しました。日本側の教員は全員，冒頭でハングルでの挨拶を披露したこともあり，会場の雰囲気がとても和らいだものとなり，議論の活発化につながり，初回として思い描いたネットワーク形成は大いに推進できたと思います。

帰国後も，関連研究者や次回の企画について，ソウル大学側の教員より問い合わせがきており，授業交換や共同研究の提案にむけ，良いスタートがきれたものと感じています。

食の安全についての話題提供者と座長

分科会７（2012年3月27日開催予定）

Reparation and Reconciliation between Korea and Japan: Focusing on Comfort Women Issues

日韓の補償問題・歴史和解（関係和解）問題 ― 慰安婦問題に焦点を当てつつ／法学研究科　教授　吉田邦彦

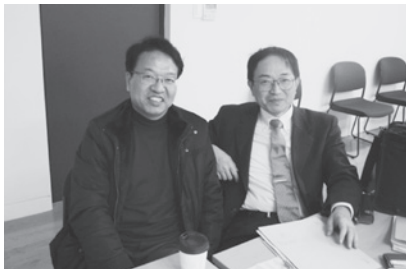
本分科会は，３月27日（火）午後１時30分より，ソウル大学公共利益・人権センターの協力を得て，同大学にて開催する予定です。

慰安婦問題は，1965年の日韓条約にも拘わらず，最近では韓国憲法裁判所による違憲判決（2011年８月），1,000回にも及ぶ日本大使館前での慰安婦ハルモニの水曜集会，また平和の碑が建てられるなど（同年12月），日韓の戦後補償問題として議論が多いテーマであり，関心が高まっているトピックです。

このような国際的問題は，集団的不法行為という民事法ないし国際人権法問題ですが，アメリカ法の状況とは異なり，東アジアではこれまで民事法研究者の関心を集めていませんでした。このことを認識し，本分科会では広く補償問題（日韓問題としては強制連行の問題，韓国内部の問題としては，光州事件や済州島の４・３事件等）に射程を据えて，そのプロセス・目的，不法行為の救済方法の特質，日本の対応の問題状況とその背景等を多面的に議論する予定です。

報告者として，①戦後補償・先住民族の問題を素材に，わが国で初めてこの課題を民事法問題として取り組んでいる吉田邦彦教授（北海道大学／民法），②2000年の国際女性法廷に参加するなど，韓国慰安婦問題に詳しい梁鉉娥（ヤン・ヒョナ）准教授（ソウル大学／法社会学，法女性学），③臨床心理学の見地から，フィリピンの慰安婦問題に詳しいクリスティナ・ゲイツ氏（フィリピン臨床心理士），④ハワイ原住民の補償問題の第一人者で，この領域のアメリカ法学をリードするエリック・ヤマモト教授（ハワイ大学／民事訴訟法，補償法），さらには，⑤刑事法学の見地から韓国補償問題（とくに光州事件の事後処理）に詳しい韓寅燮（ハン・インソプ）教授（ソウル大学／刑事法学）等，分野における第一人者が集う東アジア補償法学の最初の本格的学術大会になる予定です。

ソウル大学法科大学校大会議室での事前打ち合わせ・報告会の様子



ソウル大学公共利益・人権問題研究所での事前打ち合わせ（左が韓教授）

分科会８

NTNU-HU-SNU Joint Symposium on Science Education - Broadening Horizons through Asian Dialogues

NTNU-HU-SNU理科教育ジョイントシンポジウム - アジア的対話による地平の拡大／教育学研究院　教授　大野栄三

本分科会は，昨年の分科会参加者Chun-Yen Chang台湾師範大学科学教育センター主任の招きにより，11月17日（木）・18日（金）に，台北で開催されました。米国ミシガン大学からの参加もあり，韓国，日本，台湾，アメリカによる研究発表と活発な討論が行われました。参加者は，本学から４名（教員３名，大学院生１名），ソウル大学から11名（教員５名，研究員等２名，大学院生４名），他大学等からの参加者17名でした。

高校理科教育課程（日本のスーパーサイエンスハイスクールに相当する台湾の教育政策等）の動向，理科授業における討論と授業分析，理科授業におけるICT（情報通信技術）の活用，電子ポートフォリオなどICTを活用した教育評価（特に，教員養成，教員研修における活用）等の多彩なテーマでセッションが組まれ，たいへん充実した２日間でした。各大学とも大学院生はポスターセッションを行うこととし，質疑応答にも時間がとれ，教育効果をあげることができました。台湾師範大学附属高校も見学し，交流を持つことができました。

ソウル大学，台湾師範大学との共同研究を進め，次回の分科会につなげていきたいと考えています。

台湾師範大学科学教育センター前での集合写真

分科会９

SNU-HU Veterinary Medicine Joint Symposium

獣医学分科会シンポジウム／獣医学研究科　准教授　乙黒兼一

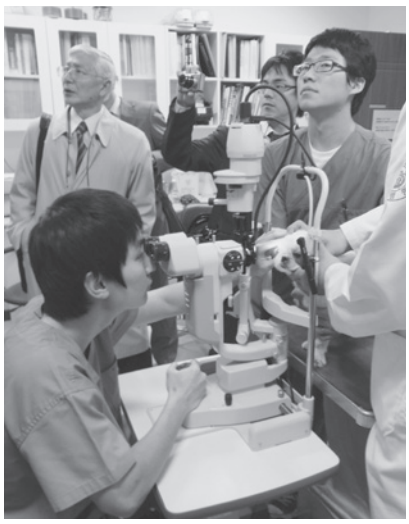
獣医学分科会は，「SNU-HU Veterinary Medicine Joint Symposium」と題し，11月18日（金）の午前10時から同５時まで，ソウル大学獣医学部のSchofield Hallにおいて開催されました。

ソウル大学　Pan Dong Ryu獣医学部長と本学　伊藤茂男獣医学研究科長の開会挨拶を皮切りに，本学５名，ソウル大学５名の計10名の講演者による発表が行われました。各講演者によって基礎研究から環境毒性・生態学に関する最新の知見が発表され，活発な意見交換の場となりました。また，大学院生による発表も本学から２名，ソウル大学から１名によって行われ，国際シンポジウムで英語での口頭発表を行う有意義な経験を若手研究者に提供することができました。

発表終了後は，ソウル大学教員による獣医学部と附属動物病院の案内が行われ，韓国における獣医学教育と獣医療の現状について説明がありました。その後，アジアにおける獣医学教育の改善と発展について意見交換を行い，今後とも両大学で協力体制を構築していくことを確認しました。

来年度に本学で行われる次回分科会は，獣医臨床をトピックとした内容で開催することが提案され，これから両大学の関係教員の間で検討を進めていくことになっています。

参加者打合せの様子



イヌの眼科診療の見学

分科会10

Nanomedicines for Next Generation

ナノバイオが先導する核酸医薬の新展開／薬学研究院　教授　原島秀吉

本分科会は，2010年にソウル大学薬学部のYu-Kyoung Oh准教授の提案によりスタートし，２年目となった今回は，11月18日（金）にソウル大学薬学部にて開催されました。21世紀の革新的治療法を支える基盤技術である遺伝子デリバリーに関する基礎的・応用的な研究を中心に，ナノ医療に関する最新の研究成果について，発表と質疑応答が行われました。本学教員３名，ソウル大学教員３名，博士研究員５名，大学院生28名が参加し，終日にわたり活発な討論が展開されました。本学教員の研究成果に対し，ソウル大学の大学院生から多くの質問がありました。また，ソウル大学の大学院生の研究発表も大変興味深く，活発な討論が行われ，双方のモチベーションが大いに刺激され，満足できる分科会となりました。懇親会では，ソウル大学の大学院生から，来年度の北大での分科会に是非とも参加したいという希望が多くあり，事前審査を行って発表者を決めてはどうかという提案もありました。

翌19日（土）には昼食会等が行われ，打ち解けた雰囲気の中で友好的な関係が深まりました。このような関係は，ぜひとも若手研究者，大学院生へとその輪を広げていきたいと思います。本分科会は，本学とソウル大学の特に若手研究者と大学院生にとって，国際的な学会において英語で口頭発表できる絶好の機会であり，今後も継続的に発展させたいと考えています。

ナノ医療シンポジウム集合写真

分科会11

Ophthalmology ― Ocular Inflammation

2011ソウル大学 ― 北海道大学眼科ジョイントシンポジウム／医学研究科　准教授　南場研一

9月21日（水）～23日（金），ソウル市内にあるソウル大学病院にて「第6回日韓眼科シンポジウム」が開催されました。本学からは私のみの参加でしたが，ソウル大学眼科からはHum Chung教授，Hyeong Gon Yu教授をはじめ，15名の先生が参加されました。

前半はHyeong Gon Yu教授の座長，後半はHum Chung教授の座長で行われ，本学からは「ベーチェット病に対するインフリキシマブ治療」「原田病における脈絡膜循環の変化」「春季カタルにおける免疫抑制点眼薬による治療」の3演題の発表，ソウル大学からは5演題の発表がありました。それぞれの大学の特徴を生かした興味深い内容であり，英語での活発な討論がなされました。

会の前後の空き時間を利用して病院の見学をさせていただきましたが，非常に多くの患者さんを診療している傍ら，大きな基礎研究棟で基礎研究にも力を注いでいる様子を垣間見ることができました。また，古い歴史ある病院がそっくりそのまま博物館として保存されており，その後方にある新しい病院との対照が印象的でした。

シンポジウム後の懇親会では双方の眼科医療事情や生活習慣の違いなど楽しく議論し，親睦を深めることができました。来年度は本学にて第7回日韓眼科シンポジウムを行う予定です。

ソウル大学病院

病院前の博物館（旧病院）

病院内の分科会会場にて

分科会12

Public Health and Sustainability

持続可能性と公衆衛生／医学研究科　教授　玉城英彦

本分科会は，11月18日（金）午後1時30分から，ソウル大学公衆衛生大学院201講義室において第1回目のシンポジウムとして開催されました。

セッションは，本学医学研究科　玉城英彦教授から「高齢者の運転とそれに関わる健康および社会的課題」等の講演と，ソウル大学Kiyong Lee教授による「喫煙に関する法令とその健康への影響」に関する講演が行われ，本学からの教員2名，大学院生3名，そしてソウル大学側からの教員4名，大学院生20名の参加者による活発な議論が行われました。

これらの討論を通じ，双方の研究成果及び研究領域の相互理解が促進されました。本分科会の開催を契機に，今後の研究交流の可能性も積極的に検討していくような機運が双方に生まれたことは，第1回目のシンポジウムとしては，実りあるものであったと考えています。

今後の連携を促進するべく，第2回の開催へ向けて相互の検討をすでに始めています。ソウル大学は医学部の他に，公衆衛生大学院を設置しており，ヘルスサイエンスを教育，研究する環境整備等の体制が本学をはじめとする日本の多くの大学より整っています。この医学部と公衆衛生大学院の両立は，米国や英国などのシステムと同様で，ヘルスサイエンスにおける欧米化が日本以上に進歩していることがうかがえました。韓国のこのような点を学びつつ，本学のヘルスサイエンスの教育研究のあり方を今後も検討していくことが求められます。お互いのさらなる交流を通じて，この領域における教員・学生の質の確保に努めていきます。

Kiyong LEE教授の「喫煙と健康」の講演風景

北大教員・学生とソウル大学関係者との別れを惜しんで

分科会13

The 2nd International Joint Workshop on New Frontiers In Convergence Science and Technology

第2回コンバージェンス科学技術フロンティアに関する合同シンポジウム／情報科学研究科　特任教授　本間利久

本ワークショップは，ソウル市から車で40分のところにある水原市のソウル大学大学院コンバージェンス科学技術研究科小講堂において，11月18日（金）午前10時から開催されました。本学情報科学研究科からは教員４名と大学院生１名が，ソウル大学からは教員８名，大学院生等７名の合計20名が参加しました。今回は，前回のソウル大学の参加者に加えて，新しくスウェーデン出身のソウル大学教授とイタリア出身の女性ソウル大学教授が参加・講演し，ソウル大学の教員のグローバル化と男女共同参画が，より一層推進されている印象を持ちました。

ワークショップは，ソウル大学のS. Hong教授による開会の挨拶と参加者の自己紹介で始まり，午前の最初のセッションは，「インドネシア泥炭・森林火災検知への無人飛行機とセンサーネットワークの応用」（情報科学研究科　本間利休特任教授），「スケーラブルコンピュータアーキテクチャの最近の研究」（ソウル大学　J. H. Ahn教授），「稀有で重要なパターンの探究法」（情報科学研究科　原口　誠教授）の講演がありました。

昼食後，午後のセッションでは，「液晶とナノチューブを融合したスマート材料」（ソウル大学　G. Scalia教授），「オーファン酵素とタンパク質データーベース」（情報科学研究科　遠藤俊徳教授），「バイオ医療・エネルギーに関連した応用のための新ナノ材料」（ソウル大学　Y. Piao教授），「ニューラルコンピューティングシステムのためのメモリスター CMOSハイブリッド半導体デバイス」（情報科学研究科　浅井哲也准教授）の講演がありました。

30分の休憩をはさんで，「液晶コアで機能化された電子スピンファイバーの応用」（ソウル大学　J. Lagerwall教授），「サッカービデオにおけるパスコースの評価法とその可視化」（情報科学研究科　博士課程２年　高橋　翔氏），「単語集合モデルと局所感度ハッシュ法を用いたスケーラブル音楽推奨システム」（ソウル大学　K. G. Lee教授）をもって講演を終了しました。

最後にS. Hong教授と本間教授から閉会の辞があり，その後ソウル市内のレストランで懇親会を開催し，次回のワークショップに向けてより一層の親交を深めました。

講演者の集合写真

講演会場の様子

分科会14

Reflection on Teaching Excellence Politics and Strategies in Higher Education: Past, Present, and Future

高等教育における教育力向上政策と戦略の考察：過去，現在，未来／高等教育推進機構　教授　細川敏幸

本分科会は，11月18日（金）午前10時からソウル大学第61ビル301教室で開催されました。ソウル大学CTL（Center for Teaching & Learning）とのシンポジウムは今回で３回目になります。本学から６名，ソウル大学から９名の参加者がありました。

ソウル大学からは，①e-ラーニングシステムの在り方を再検討していること（Joong-seek Lee教授），②アカデミック・カウンセリングを開始し，１年で約300名の相談があったこと（Jung-Ah Choi氏及びHeewon Lee教授），③外国人教員のための英語による教育研修を開始したこと（Eunmee Park氏）の３件が報告されました。

本学からは，④教員の教育評価・表彰制度（高等教育推進機構　山田邦雅准教授），⑤アカデミックサポート制度の運用とその成果（斉藤 準，宮本 淳特定専門職員）の２件を報告しました。

発表後，互いに先進的な試みについて成果を聞き，それらの活動導入の可能性について議論しました。特に，③「外国人教員のための研修」は本学でも需要がある可能性があり，興味深いものでした。学習サポートが両国ともに課題になっていることが浮き彫りにされた会合でもありました。

今回のシンポジウムでは，互いの大学における教員支援，学習支援システムが紹介され，討論が展開されました。ソウル大学ではよく整備されているように思われたe-ラーニングシステムの再検討が始まっていることもわかり，興味深い会合でした。

来年度も，さらに充実したシンポジウムを企画運営する予定です。

Joong-seek Lee教授の発表の様子

分科会15

Siberia, Mongol, Far East: Archaeological Discourse

シベリア=モンゴル=極東：考古学的談話／スラブ研究センター長　望月哲男

本分科会は，11月19日（土）午後1時30分から同5時まで，本学スラブ研究センターとソウル大学ロシア・東欧・ユーラシア研究所の共催により，同研究所セミナー室において行われました。

参加者はソウル大学側13名，本学側3名であり，プログラムは先史時代と歴史時代に分かれ，それぞれ2件ずつの報告と討論で構成されました。先史時代はシベリアにおける人類文化の起源に関する共通関心をもとにデザインされ，ネアンデルタールから現代人類への移行（アイヌ・先住民研究センター　加藤博文教授），スキト－シベリア文化圏の形成（ソウル大学Kang In-uk教授）の問題について，最新の考え方が交換されました。歴史時代に関しては，渤海と契丹という2地域の遺跡発掘調査に関する報告がソウル大学　Jung Sukbae教授と本学スラブ研究センター　木山克彦研究員によって行われ，住居址や土器などに関するきわめて具体的な分析・考察が交換されました。スラブ・ユーラシアのマクロな歴史の展開という意味で，両研究所とその関係者にとって大きな刺激になりました。

スラブ・ユーラシア地域研究を専門とする両研究所が考古学で連携するのは初めての試みでしたが，ソウル大学出身者で他大学や博物館に勤める専門家の参加もあり，専門的なテーマが意外に人的な広がりを持ちうることを実感した分科会でした。

報告の様子

討論者と聴講者

分科会16

Campus Globalization － The Role of Overseas Offices

大学の国際化 － 海外オフィスの役割／国際本部　役員補佐　蟹江俊仁

本分科会は，ソウル大学と本学の国際担当教職員が，大学の国際化に関するそれぞれの大学の現状及び戦略について，情報・意見交換を行う場として，第8回ジョイントシンポジウムより開催されており，今回で7回目となりました。ソウル大学　Junki Kim国際本部長，及び本学　蟹江俊仁国際本部役員補佐（工学研究院教授）を座長とし，「Campus Globalization：The Role of Overseas Offices」をテーマに，ソウル大学からは6名の教職員が，本学からは本堂武夫理事・副学長をはじめ，7名の教職員が参加しました。

ソウル大学Junki Kim国際本部長の挨拶の後，Jeongnam Hwangディレクターより，ソウル大学の国際化に関する現在の状況やデータ，現在取り組んでいるプログラム，国際化戦略における国際オフィスの役割，及び今後の戦略・目標についての発表が行われました。引き続き，平成23年4月1日に開所した本学ソウルオフィス　朴紅所長より，本学の国際化の現状，北京オフィスの設置による効果，ソウルオフィスに期待すること，また今後設置予定のザンビアオフィス及びヘルシンキオフィスの概要，また設置により期待される効果などの発表がありました。

両大学からの発表の後，参加者によるディスカッションが行われ，ソウル大学が行っている中国でのプログラム，来年度予定している日本人向けのプログラム，また今後の留学生獲得のターゲットとなる地域などについて，活発な議論が行われました。

発表する朴ソウルオフィス所長

分科会の様子